

(様式1)

令和元年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

学校整理番号	65
学校名	八戸工業高等学校
定時制の課程	校舎
自己評価実施日	令和 2年 1月 31日(金)
学校関係者評価実施日	令和 2年 2月 4日(火)

(1) 学校教育目標	ア. 自ら学ぶ意欲と主体的に探究する力を養い、未来を切り拓いていく力を備えた人間を育成する。 イ. 個性を伸ばし、豊かな教養を身につけた、健康ではつらつとした人間を育成する。 ウ. 技術・技能と技術者倫理を身につけ、豊かな心をもつ人間を育成する。 エ. 将来、工業の中核を担える技術者を育成する。
(2) 現状と課題	在籍する生徒は、不登校や経済的理由から入学してきた者も多い。また、基礎学力や対人間関係に問題をかかえている者もあり、社会的自立を促すために、基礎基本の学習活動や、行事等での社会規範を身に付けることが求められている。
(3) 重点目標	1 「授業を大切にする」 2 特別活動(学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動)を通じた人間づくり 3 キャリア教育の充実 4 地域との連携
(4) 結果の公表	保護者には文書で報告するとともに、アンケート結果はホームページで公開する

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
保護者代表 1名 地域住民 1名 卒業生 1名 大学教員 1名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業の工夫と改善	①基礎学力の向上を目指し、個々の実態にあわせた指導をする ②学習タイムに必要な予習・復習を行う ③漢字テストを8回行い、学習日を設ける	①個々の生徒に対応した教科指導が行われていると生徒・保護者とも評価されている ②学習タイムは予習復習、資格試験等に有効に活用された ③全学年同レベルで実施し、熱心に学習する生徒もいる反面、積極的に取り組まなかった生徒もいた	A	小中学校において、発達障害の生徒が増加傾向にあり、関係の研修を今後も続けてほしい。	多種多様な生徒に対応できるよう、学習指導や発達障害等に係る研修の機会を充実させる。
2	特別活動の充実	①行事ごとに生徒が話し合いをする機会をもつ ②講演会や普段の生活にて恒常的に指導する ③遠足やスケート教室等の校外行事	①生徒会主体で行事の企画立案を行ったところ、少人数なこともありうまくいかない場面も見受けられたが、生徒・保護者からは評価されている ②講演会は生徒にとって有意義であった ③校外での活動は普段はできない体験をすることで、生徒の意外な一面に触れることができた	A	少ない生徒ながら、指導はよく行われている	生徒数が減少するなかで、一人ひとりが活動する喜びを得られるような行事や生徒会活動を企画し、生徒自ら関わっていく雰囲気を醸成する。
3	キャリア教育の充実	①職業安定所との連絡および情報交換 ②適切な進路情報の提供 ③進学希望の早期対策	①職業安定所との緊密な連絡のもと、教員間で生徒の進路希望状況を把握できた ②卒業生からの情報や企業からの進路情報を適切に提供できた ③出席状況や行動面において指導が難しい面があった	B	特になし	毎年行っている企業見学の計画に際し、生徒の勤労意欲や興味を高めるようにする。また、生徒の希望に応じて進路指導も多様化して行っていく。
4	保護者や地域への啓蒙	①授業公開、学校行事への参加案内 ②学級懇談会の実施 ③清掃活動で地域貢献	①一定数の保護者の来校があり、評価されている ②保護者個々の日程に合わせた懇談会を実施した ③全校生徒で清掃活動を行い、地域に貢献できた	A	アンケートの回収率がよく、評価も高いと思われる	家庭との連絡を密にし、生徒の状況を把握するとともに、保護者と地域と共に見守りながら指導を継続していく。

(11) 総括	職員全員で目標を共有し取り組んだ結果、ほとんどの目標を達成できたと評価された。保護者からは生徒の特性に応じた教科指導の要望もあり、今後の授業や実習の指導を考えていく必要がある。生徒の卒業後の進路を充実させるために保護者および地域と連携して社会に適応できる人材を育成するよう努力していかねばならない。
---------	---